

上野遊水地事業

●具体的な整備内容

狭窄部開削は当面実施しないが、岩倉峡狭窄部上流における洪水時に上野地区の浸水被害軽減を図るため上野遊水地を継続実施するとともに、越流堤の構造について詳細な検討を行う。

遊水地内周囲堤の継続と遊水地機能を有するため、新たに越流堤、排水門、水路、内水排除施設等を完成させる。

●事業の数量・諸元等

越流堤・排水門 4箇所(各遊水地1箇所)
堤防完成 L=10.3 km

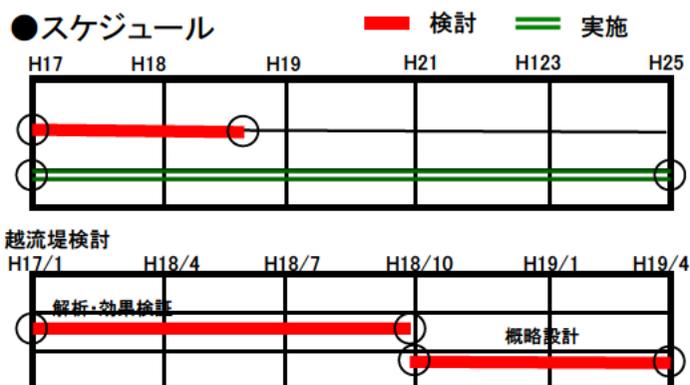
●うち整備計画期間内の数量・諸元等

越流堤・排水門 4箇所(各遊水地1箇所)
堤防完成 L=10.3 km

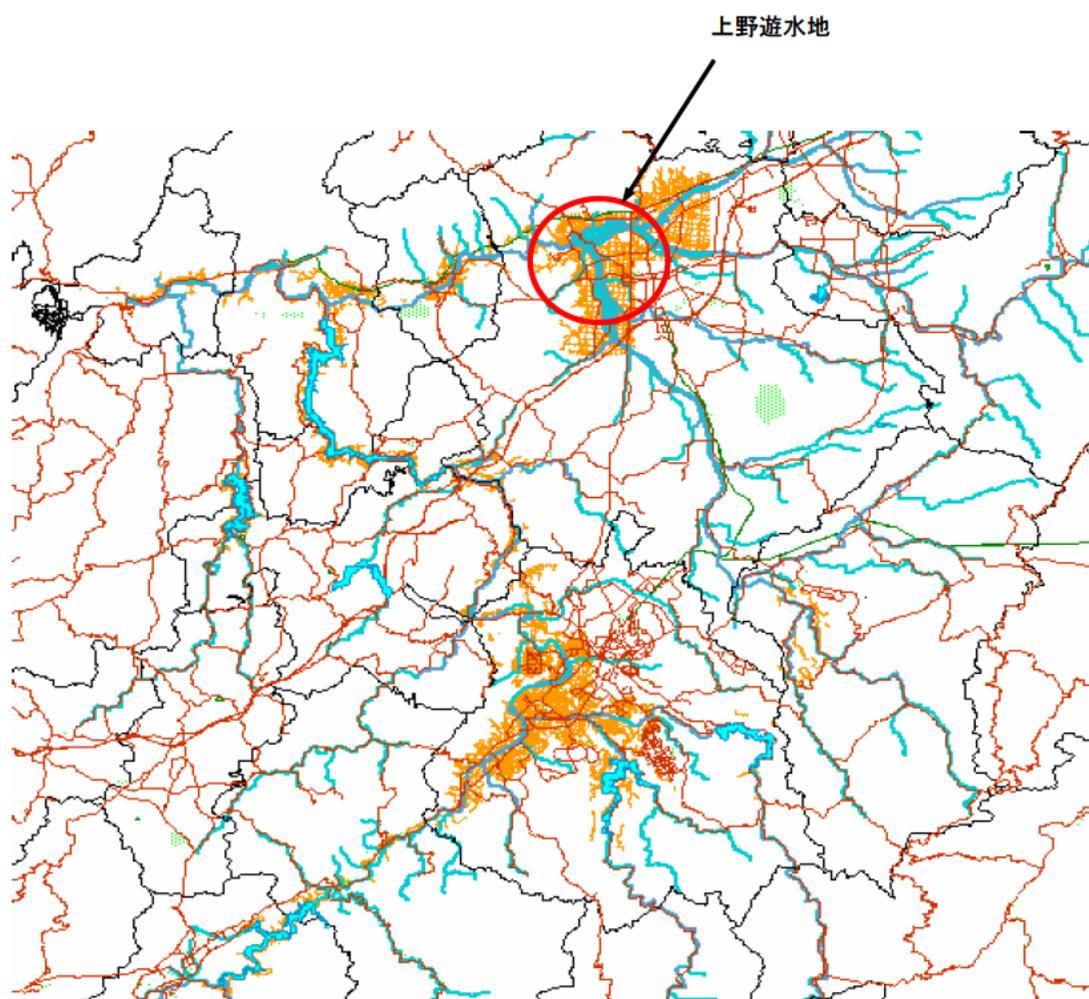
●事業費

- ・全体事業費 約717億円
- ・うち執行済 約490億円
- ・うち整備計画期間内 約227億円
- ・うち整備計画期間以降 0円

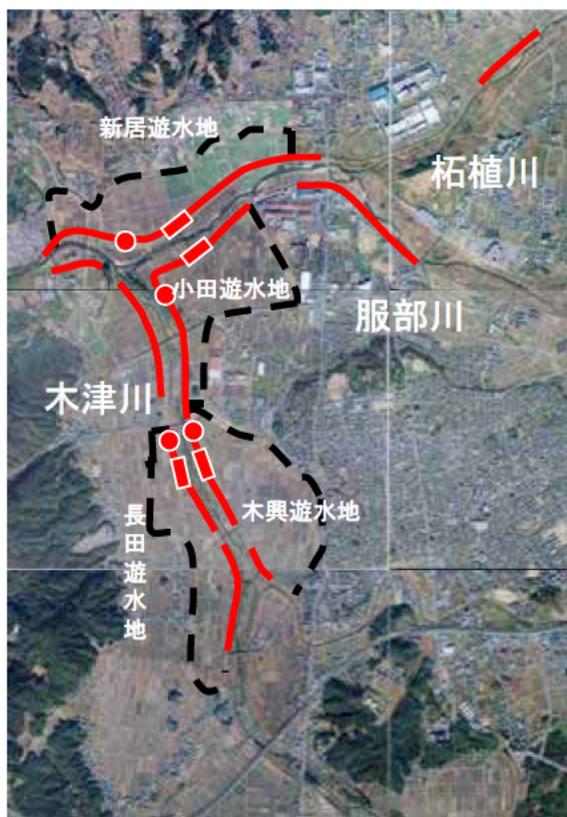
●スケジュール



●位置図



●平面図(機構図、体制図)



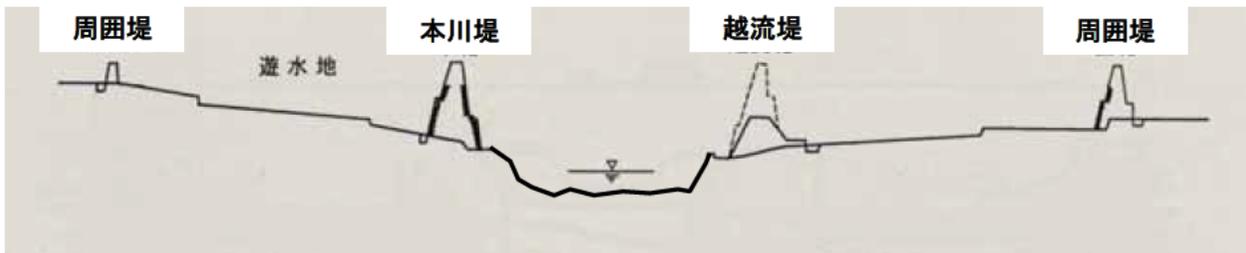
上野遊水地残事業

・検討内容
 既往最大規模の洪水に対して、より上野地区の浸水被害の軽減が図れるような越流堤の検討を行う

●	排水門(未施工)
■	越流堤(未施工)
—	本川堤(未完成)
- -	周囲堤(完成)

●横断面図(構造図、フローチャート)

遊水地断面図



●整備効果

現況

- 上野地区は、岩倉狭窄部上流に位置し、このため洪水常襲地帯である。
- 上野遊水地計画は昭和44年より着手され、平成14年度末で周囲堤が概成し、越流堤、排水門、水路、内排水路等が未施工であり継続実施を行う必要がある。

昭和28年13号台風



実績

- 浸水面積540ha

遊水地完成後
(想定氾濫区域)

- 想定氾濫被害
●浸水面積186ha

課題

- 上野地区は、上野遊水地が完成しても既往最大規模の洪水に対して**浸水被害は解消されない。**

検討内容

- 既往最大規模の洪水に対してより浸水被害の軽減が図れるような越流堤の検討を行う

提案理由

- ・上野地区は、昭和20年～昭和40年に度重なる洪水被害を被った。
- ・上野地区の洪水被害の要因である岩倉峡開削は、下流堤防の破堤危険性を増大させるような狭窄部の開削は当面できない。
- ・これより、上野地区の治水対策として上野遊水地と川上ダムが計画され、上野遊水地事業は昭和44年より着手された。
- ・上野遊水地が完成すれば、既往最大規模の洪水の浸水被害540haに対して186haまで浸水被害が軽減される。
- ・昭和44年より着手され以来36年が経過し、現在周囲堤が概成したが、越流堤・排水門等が未施工であり継続する必要がある。
- ・上野市・地元地区は、上野遊水地完成を待ち望んでいる。
- ・遊水地は他の貯留施設にくらべて河川への影響が少ない。

委員会等からの意見

- ・「淀川水系5ダムについての方針」に対する見解 平成17年8月5日
岩倉峡の流下能力については納得できる説明がなされていません。上野地区の治水を検討するうえでの基本的な事項ですので、慎重に検討・審議したいと考えています。
- ・第2回木津川上流部会(H17年8月20日)
岩倉峡の流下能力は、上野地区の治水対策を考える上で重要な意味を持つため、再度検証を行う必要がある。

進捗状況等

- ・昭和44年より事業を実施し、平成17年度までに遊水地周囲堤を概成。
- ・平成17年度は岩倉峡流下能力検討会にて、岩倉峡の不等流計算及び流下能力について検討を行った。
- ・事業展開として、事業用地の確保、排水門、越流堤等の検討、施工の着手を随時行い平成25年度を目標に、遊水地を完成させる。

岩倉峡流下能力検討会

岩倉峡の流下能力について、専門家による岩倉峡流下能力検討会を設置(検討会を3回開催)し、下記の内容について検討を行った。

1. 岩倉峡の不等流計算について
2. 岩倉峡の流下能力について

今後の見通し等

遊水地の越流堤等の設計にあたっては、岩倉峡流下能力の評価による影響を検討した上で行う。